

高齢者の「閉じこもり」に関する文献学的研究

研究動向と定義・コホート研究の検討

ヒライ ヒロン コンドウ カツノリ
平井 寛* 近藤 克則^{2*}

本報告の目的は、1)日本における「閉じこもり」研究の動向を概観すること、2)先行研究における「閉じこもり」定義を整理し、要介護リスクとしての「閉じこもり」定義について考察すること、3)定義の妥当性をコホート研究レビューにより検討することである。

医学中央雑誌の検索等で入手した105論文をレビューした結果、以下の知見が得られた。

1)「閉じこもり」関連の研究は2000年以降急激に増加していた。2)「閉じこもり」定義を構成する要素は、①生活行動範囲、②外出頻度、③交流状況、④移動能力の4つに大別することができた。「外出頻度」に他者との「交流状況」や、本人の「移動能力」を組み合わせた定義を行うものもあった。近年「外出頻度」を用いる研究が増えていた。3)要介護リスクとしての「閉じこもり」定義の妥当性を検討しうるコホート研究は3編であった。サンプル数と追跡期間、他の定義との比較、交絡の調整の必要性など改善すべき課題が指摘できた。今後これらを考慮した質の高いコホート研究の蓄積により、高齢者の「閉じこもり」の定義の妥当性を検討していくことが望まれる。

Key words : 閉じこもり, 介護予防, コホート研究

* 日本福祉大学 COE 推進室

^{2*} 日本福祉大学社会福祉学部

連絡先 : 〒460-0012 愛知県名古屋市中区千代田
5-22-35

日本福祉大学 COE 推進室 平井 寛